

こんばんは。北大生協学生委員会です！

みなさん共通テスト本当にお疲れ様です。自己採点が終わり、様々な思いを抱えていると思います。しかし、いつまでも共通テストの結果に影響されているわけにはいきません。この後すぐに私立校の試験、そして国立大学の二次試験が控えています。気持ちを切り替え、前だけを見て勉強に取り組んでいきましょう！（といっても無理はしすぎないように！）さて、今回お届けする内容は「GIメンバーの合格体験記」です。

■□■ GIメンバーの合格体験記

ちゅーご(総理・1・群馬県出身)の合格体験記

共通テストが終わり、次の日に学校に行ってみんなで自己採点を行いました。目標にしていた点数には届かず、難化したこともありかなり落ち込みました。でも、周りのみんなもあまり取れておらず、担任の先生が「今年は難化してるから安心して！」としきりに言っていたのを覚えています。もともと共通テストの出来具合でどこに出願するのか決めようと思っていたので、自己採点から数日間は出願校選びでかなり悩みました。学校の先生や塾の先生、両親などと何度も話しました。自分は共通テスト前までは北大とは別の国立大学の対策を行っていましたが、模試の判定と共通テストの結果をふまえると、その大学に出願するのは少しリスクがありました。今までの対策がすべて無駄になってしまうということもあり、本当に悩みましたが北大に出願することに決めました。この時、塾や学校の先生の「本当にそれでいいの？今まで対策してきたんでしょ？」という言葉がとても胸にささったのを今でも鮮明に覚えています。

でも、自分の性格(絶対浪人に向いていない)をよくわかっている両親との相談の末、北大出願を決めました。ここで問題なのが北大の問題演習を全くやってこなかったことです。まわりの北大受験者のほとんどは共通テストの前まで北大の対策をずっとしてきました。その人達と勝負しなくてはいけないと考えると憂鬱になっていました。でも切り替えるしかありません。

自分はすごく心配性なので、私立大学をたくさん出願していました(筆記だけで4校出願、その他共通テスト利用なども)。また、無駄にプライドが高いため「一つも落ちたくない!!!」という気持ちでいっぱいでした。

上記のような状況から、北大の対策を一から始めつつ、多くの私立大学に合格しなければならぬという難解なミッションが始まりました。

私立大学の対策としては、よっぽどことがないと落ちないであろうという大学はざっと問題に目を通すだけにして、実力的に合格しなくてはいけない大学といわゆる「挑戦校」は過去問を2,3年分解くようにしていました。でもあまり時間がなかったので、試験前日にまとめて解いて挑んだ大学もありました。みなさんに意識してほしいのは、「1年分解く→丁寧に見直しと研究→もう1年分解く」というサイクルです。自分は1年分解いて自己採点をして、見直さずにもう1年分解いて、その後に見直していました。これでは2年分やった意味が

あまりありません。時間が無い中で効率よく対策をするためにはこのサイクルが非常に重要だと思います。

北大の対策としてはまずは赤本を急いで買い、1年分解いてみて感触をつかみました。あとは演習あるのみだ！と思い、15年分の問題が収録されている数学と英語の赤本を買い、毎日解いていました。途中から、「北大の英語は共通テストと同じで慣れればいける」という自信を手にしていました。化学と物理は同じ時間内に2つ解かなくてはいけなかったのが絶対に150分通して演習するようにしてしまいました。5年分解き終わってしまったので、メルカリでさらに昔の5年分を購入し、取り組んでいました(今年から物理と化学も教科別の赤本が出たようなのでみなさんは上手く活用してほしいです)。

私立の受験は、北大の2次試験を意識して挑むようにしましょう。みなさん共通テストで感じたと思いますが、入試には独特の雰囲気があります。北大受験の時にその雰囲気にのまれてしまわないよう、私立受験の時に慣れておきましょう。

ここまでは堅い内容となってしまいましたが、そんなに恐れる必要はありません。共通テストを乗り越えたみなさんならきっとこの先も大丈夫です。自分を信じて、ここまで頑張ってきた自分に感謝しながら私立受験も北大受験も乗り切りましょう。その先には楽しい大学生活が待っています。本当に楽しいです。絶対に大丈夫。応援しています。

あすのん（総理・1・長野県出身）の合格体験記

共通テストの自己採点を終えた私は不安でいっぱいでした。集中力が途切れて大問一つ分をまるまる聞き逃した英語のリスニングは想像通りの点数の低さ。得意科目だという自負があった数学ではこれまでに見たこともないような点数を取ってしまいました。こんな点数ではどこの大学にも行くことはできないだろうと思い、共通テストが終わってからの数日間は全く勉強しませんでした。(勉強しなかったというよりは不安で勉強が手に付きませんでした。)少し気持ちが落ち着いて、学校の補講授業に参加し始めましたが、「今さら勉強したところで、どうせ受かるわけがない。共通テストで失敗したので、共通テスト利用の私立にも受かることができないし、このままでは浪人確定かな…」と感じていました。

でも、共テリサーチの結果が返却されると、判定は思ったより悪くはありませんでした。共テリサーチの結果は、予備校によっても様々で、本当に信頼していいものなのかという心配もありましたが、北大へ出願することに決めました。両親は私が自分で決めたことならと私の決定を応援してくれましたし、学校の先生も進路を変更する必要はないのではないかと背中を押してくださいました。

北大前期試験の数日前、北海道は稀にみる大雪のため、予約していた飛行機は飛びませんでした。その2日後、ようやく飛行機が飛び、新千歳空港にたどり着くことができました。JRが動いておらず、札幌へ向かうタクシーやバスに乗るための行列ができていました。いつ次の便が来るのかもわからないバスの列に数時間並びました。(ディズニーのアトラクション待ちかな？ってくらいに待ちました…。今となつては、あれはあれでいい思い出

す。)列に並びながら参考書を片手に勉強をする受験生らしき人もいましたが、やればやるほど不安になりそうで、ここまできたらメンタルで負けないようにと、私はあえて勉強はしませんでした。(その後ホテルに着いてもほとんど勉強した記憶がありません。)

試験当日。一つ目の受験科目は数学でした。共通テストでの悔しさを晴らそうと臨んだのですが、例年に比べると難化していると思うにはできませんでした。数学は得点源だと思っていたのにな…と落ち込みましたが、共通テストで私が難しいと感じた科目は全国平均も低かったので、二次試験でもきっと同様の現象が起こるだろうと何とか気持ちを切り替えることができました。

そして迎えた北大の合格発表の日。その日はとある公立大学の中期日程の受験日でした。試験室の入室完了時刻は9時半だったので、9時に行われる北大の合格発表を試験会場の前で見ることにしました。スマホの画面に自分の受験番号を見つけましたが、最初は信じられませんでした。父や兄、祖母に合格したことを報告し、中期の公立大学を受験することなく、そのまま帰宅しました。(北大に落ちていたらおそらく悲しくて試験どころではなかったので、こんなタイミング、こんな場所で合否を確認したのは本当に賭けでしたね。落ちていたらどうするつもりだったことやら…。)

翌日、大学から合格通知書が届くと思ったのですが、届きませんでした。昨日のあれはもしかしたら夢だったのかもしれない。本当は不合格だったのかもしれない。もしこのまま大学からの書類が郵送されてこなかったら、私立大学に行こうと内心本気で思っていました。でも次の日の朝、合格通知書はちゃんと届きました！合格したのだという実感が初めて湧き、とても嬉しかったのを覚えています。

長くなってしまいましたが、不安に駆られてすぐに落ち込む私でもなんとか受験を乗り越え、無事に北大に合格することができました。共通テストを終えた皆さんもきっと不安に感じていると思います。でも、皆さんならきっと大丈夫。ここまでやってきたんだから。共通テストの結果がどうであろうと、諦めなければ、まだ可能性は残っています。これまで自分がやってきたことを信じて頑張りましょう！北大の二次試験でも皆さんが全力を尽くすことができるよう、皆さんが無事に合格することができるよう、祈っています。頑張ってくださいね。

きなり(文・1・東京都出身)の合格体験記

共通テストの2日目が終わった後は、数学Ⅱbの手応えが無く、放心状態だったのを覚えています。しかし、高校近くの会場だったため、同じ高校の友達もかなり多く、お互いの数学の手応えを話して、「手応えがないのは自分だけじゃない。」と少し安心しました。皆同じ

ような落ち込み状態だったので、バスで皆で帰って気晴らしにタピオカを飲んだのをよく覚えています笑。ただ、いくら友達と話して安心しても、1人で自己採点するときは本当に怖かったです。結果、数学は案の定過去最低でしたが、他の教科がそこまで悪くなかったこともあり、全体のバランスと換算後の点数、共通テスト利用が取れそうだったことを踏まえて北大に出願することにしました。

ただし、共通テスト後に悩まなくても良いように、共通テストで何点だったらどこの大学に出願する、というのは11月下旬にはもう決めていました。もともと受験勉強において、家族と意見が異なっていた点が多かったのもあり、共通テスト本番までに家族と話し合っておくことを重視しました。優柔不断な上に、一度悩み始めると勉強に集中できない性格なのは分かりきっていたので、事前に決めておいたのは良かったな、と振り返って思います。

共通テストの次の日からは、2次試験までの期間のスケジュールを立て、1日のルーティンを決めました。この時期から本格的に過去問に手をつけ始めました。

世界史は、過去問を解いて、学校の先生に添削してもらい、それを教科書や資料集を参考に解き直すことしかしませんでした。初めは、何となくでしか記述を書けなかったのですが、何度も回数を重ねていくうちに、教科書や用語集に出てくる言葉を使い、点数がとれる記述になってきました。世界史はこの時期にじっくりやったことで一番伸びたと思います。英語は、英作文に力を入れました。多くの問題に手を出すよりも「北大英語の15ヵ年」の英作文を、立場を変えたり内容を変えたりしながら3周しました。最初は30分以上かかる上に、文法ミスだらけでしたが、本番直前には15分以内で2ミス程度に抑えられるようになりました。

前期試験の時、国語は、本番1週間前までスランプになり、この時期が最も辛かったです。国語もひたすら過去問（13年ほど）を解いて学校の先生に添削してもらっていました。マークの考え方に慣れてしまったのもあり、解答の軸がぶれて直らなかった時期がありました。日を置いて記述問題を書き直すことを繰り返していくうちに直ったのですが、元々他の教科よりかは比較的得意だったので、かなり焦ったことを覚えています。

そして、飛行機が遅れる、JRが止まるといったハプニングはありましたが、結局北大に合格でき、進学することができました。合格発表の日は、なんと卒業式とかぶってしまったので、正直、卒業式中は式どころではありませんでした。家に帰ってから、自分で見る、と決めていたので、卒業式が終わってダッシュで家に帰り、合格発表を見てからまた高校に戻ってから、友達と心置きなく写真などを撮りました！

以上です！受験勉強は辛いものでしたが、私にとっては、自分が大学やその先で何をしたいかを考えることのできる良い機会になったと今は思います。行きたい大学や大学でやりたいことを考えて、家族に説明して、そのためにどうやって勉強すれば目的に近づけるかを自分で考えながら勉強してきたことは、内容は違えど大学生活にも生きています。どのような結果になっても、自分で考えて行動した経験は後から自分を支えてくれます。だから今は思いっきり頑張ってください。力を出せるよう応援しています。

■□■今日の写真……………

今回の写真は「スキー場」です。北海道にいるからには毎年1回はスキーに行きたい！そんなことを考えている筆者です。

https://drive.google.com/file/d/1G2DkSDZxNd0S9k7r-akmA_m4py2v7D5N/view?usp=share_link

■□■今日の問題……………

今回は生物学に関する英単語です。長文読解において、難しい専門用語の意味が分からなくても文脈的に予想できることは多くありますが、知っておくと役に立つ（かもしれない）ので、ぜひ覚えてみましょう！

1. homeostasis
2. photosynthesis
3. chloroplast
4. ecosystem
5. biosphere

…………▶▶▶前回の解答

<古文>

- ① なるほど。本当に。
- ② 気に食わない。不愉快だ。
- ③ 病状が重い。

<漢文>

- ① 読み：けだ(シ) 意味：思うに、おそらく

- ② 読み：お(イテ) 意味：～で、～にとって
③ 読み：すなは(チ) 意味：～するときはずっと

.....

次の配信は「いざ志望校選び！北大のいいところと悪いところ」です。お楽しみに！

■□■今週のブログ.....

更新があったときのみ、書くようにお願いします！

リンクは<http://hokudaigi.blog119.fc2.com/archives.html>の、一番上の記事のリンクを張ってください（このリンクじゃないです）

■□■追伸.....

受験には人それぞれの物語があるので、合格体験記も参考程度に読んでくださいね！
（総理・1・ちゅーご）

あの時、北大に行ってみればいいんじゃない？って背中を押してくれた両親と先生のおかげで今の楽しい大学生活があります。本当に感謝しかないです。（総理・1・あすのん）

JRが止まってバスに6時間乗ったのも今ではいい思い出です。（文・1・きなり）

○バックナンバーはこちらから
<https://hokudai-coop-gi.com/mail/mail.html>

○配信停止はこちらから

`%url/https:out:ouen23stop%`

○北大生協学生委員会のブログはこちらから
<http://hokudaigi.blog119.fc2.com/?cat=22>

○質問等はこちらまで

北大生協学生組織委員会

jukensei_ouen@coop.hokudai.ac.jp
